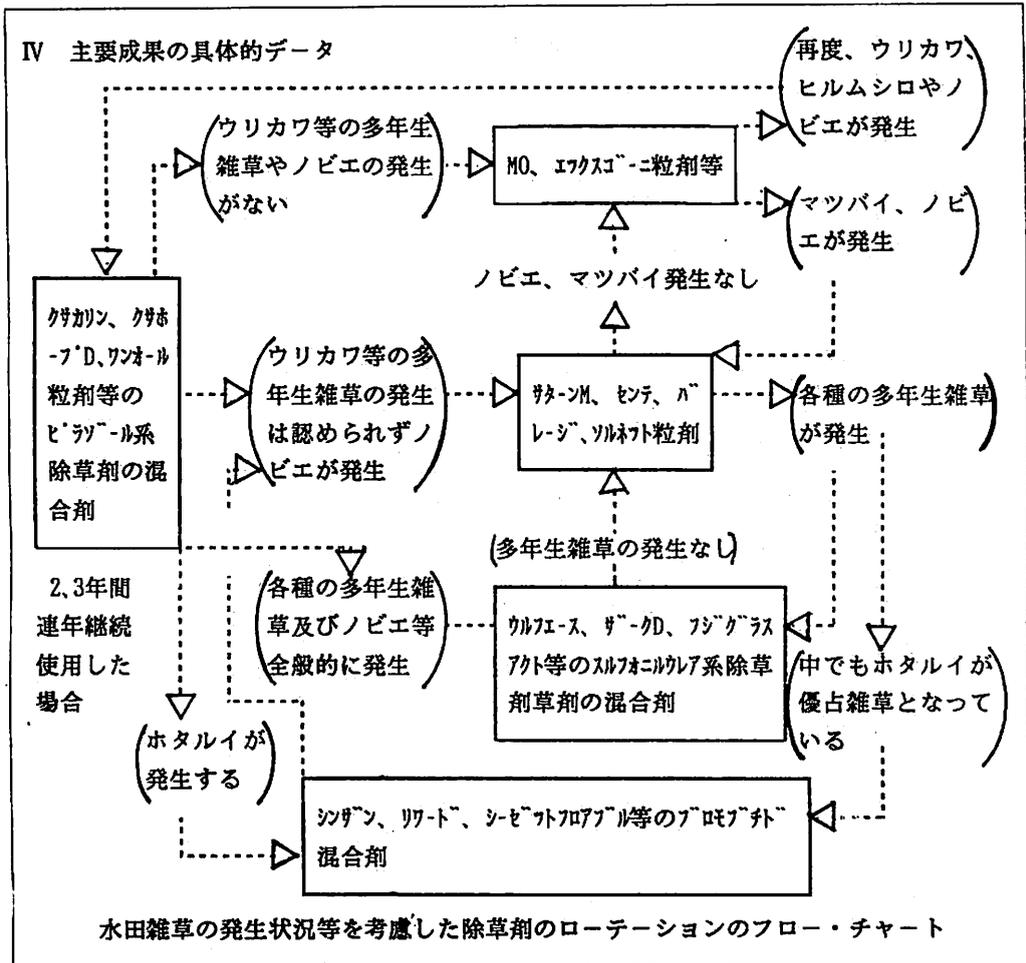


(普通作物-稲-雑草防除)

(農産-栽培-作物栽培)

課題名	35 水稲用新除草剤の実用化試験	分類	①
	(4) 水稲用除草剤のローテーションによる合理的使用法のモデル		
試験研究年次	連年継続～2年(継続)		
I 目的 近年、除草剤の開発はめまぐるしいものがあり、1回の除草剤散布で全雑草をほぼ完全に枯殺するまでになっている。一方、現在主に使用されている除草剤は、2、3種の混合剤であり、対象とする雑草の発生が無い場合でも高価な除草剤(混合剤)を散布している場合が多い。また、従来から除草剤のローテーションを図ることの必要性は指摘されていたが、具体的な方法は示されていない。 ここでは、除草剤の効率的防除法を確立するため、ローテーションによる合理的使用法のモデルを作成する。			
II 試験方法 1 水稲用除草剤の実用化試験：県の使用基準に採用した除草剤について、草種別の除草効果等の情報を利用する(連年継続～2年)。 2 トララレット系除草剤を中心とする一発処理剤を2、3年継続使用した県内の農家水田を対象に、60年に32筆、61年に28筆から土壌を採取し、どのような雑草が発生するかを調査。			
III 主要成果の概要 1 技術・情報の内容と特徴 同一除草剤を連年使用することは、除草剤の効率的利用を図る上で、また生態系への影響を軽減する面からも問題がある。 ここでは、県の除草剤使用基準に採用されている一発処理剤を中心に雑草の発生状況等を考慮した除草剤のローテーションのモデル(具体的データの項に記載)を作成した。 (1)雑草の発生状況による除草剤のグルーピング (2)ローテーションのフロー・チャート 2 適用効果 (1)既に平成3年度雑草防除基準に記載の「水田雑草発生量の推定法」や「グルーピングされた除草剤の価格」等と併せて活用することで、効率的な雑草防除が可能となり、除草費用の節減となる。 (2)同一除草剤の連年使用を防止でき、水田雑草の適正防除のみならず環境保全の面からも効果が期待できる。			



V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 県の除草剤使用基準の「雑草の効率的防除法」の項に記載し普及を図る。
- 2 本成果の利用には、その圃場に発生する雑草の種類を正確に把握する必要があるが、「水田雑草発生量の推定法と効率的防除法」（昭和62年度研究成果情報）等を参照する。
- 3 除草剤は毎年新たに採用されたり、改廃されるので、その剤がどこにグルーピングされるかを有効成分等から考慮する必要がある。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 簡易な雑草の発生予測法の確立
- 2 除草剤のみでなく、耕種的・生物的防除法を組み込んだ総合防除法の確立

VII 資料名 3年度 主要農作物雑草防除基準